

SNSに高額バイト それ危険！



講師を務めた（左から）板屋朝々さん、三井俊和さん



タブレット端末を用いた教材「いすれも久御山町」

「闇バイト」をめぐる犯罪に若者が巻き込まれるケースが相次いでいる。高額報酬をうたうSNSがきっかけだ。そのリスクを知ってもらおうと、府警は16日、久御山町の久御山中学校で情報モラル教室を開いた。生徒たちはタブレット端末で疑似体験し、SNSの危険性を学んだ。

久御山中で情報モラル教室

3年生が自分の机の上のタブレット端末を見つめていた。画面に出てきたのは求人広告。

「時給1万円」

この誘いに応じた結果、強盗の実行犯に仕立てられるというアニメ教材だ。応募したのは、クラブ活動や勉強に励む、ごく普通の高校生。

この教材をもとに、中学生たちは「応募するかどうか」「やり取りで何を感じるか」といった設問に答えながら、SNSを通して犯罪に加担するまでの流れを追体験した。

「これは犯罪ではないだろう」と高額バイトに気軽に関わってしまう子どもが多い。一度足を踏み入れると、個人情報や写真が盗まれ、抜け出せなくな

アニメ教材で犯罪加担への流れ追体験

る。中学生のうちから危機感を持つてほしい」

板屋さんは同志社大学法学部4年で、将来は警察官を目指している。「難しい内容を少しでもわかりやすく伝えられるよう工夫した。授業後、生徒から『時給が高いと、つい応募してしまう』という声があり、こうした授業の大切さを実感した」と振り返った。

授業を受けた井野極太さん(14)は「簡単に高額な収入を得ることは難しい。高校に進んでアルバイトを始める時は気をつけたい」と話した。

府警サイバー企画課によると、闇バイトや不正アクセスなどネットに関する相談は年々、増加傾向にあるという。

2024年の府内のサイバー犯罪関連の相談件数は6968件にのぼり、04年以降で最多だった。20歳未満からの相談は263件で、前年より119件増えた。

寺井亮彦次席は「中学生はネットの利用が増えるが、ネットの怖さや対処が身についていない年代。だからこそ、迷わず、すぐに相談してほしい」と呼びかけた。

(木子慎太郎)